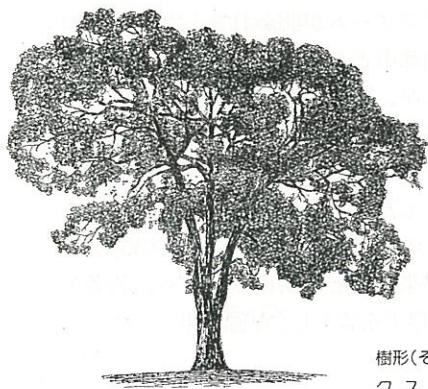


—— 主 な 記 事 ——

- ★現場の声
- ★粘着バンドによる  
ヒノキカワモグリガ加害防止効果
- ★海外研修報告
- ★有用樹種の育て方(カヤ)
- ★研究員を訪ねて
- ★佐寺原遺跡

# 林試 だより



樹形(その6)  
クスノキ

(((((((((((((((((((( フォト ))))))))))))))))))

—— 婦 人 木 工 教 室 ——

家庭における木材利用、普及をめざした  
この木工教室では、皆さん木材に対する  
関心は高く、工作実習の収納ボックスや  
踏み台などに熱心に取り組みました。

(平成2年11月28日開催)

## 林業の現場から

大分県日田郡  
中津江村長 北村益郁

終戦後、日本経済はすばらしい発展をとげ、今や世界に冠たる進展をとげたことは、日本国民性の努力の賜ではないかと思っております。

日田林業も、日本三大林業地の一つとして数えられ、終戦後、木材ブームに依り拡大造林が推進されましたが、現在は木材不況や労務不足から此の優良林業地にかげりが出て来た様でございます。

有名な奈良の吉野林業地、京都の北山林業地と比較した場合、果たして日田の林業地が立派だと申せましょうか？ こんなことを書いて読者の皆さんからお叱りを受けるかも知れませんが、私一人の思い過しでしょうか？ 遠い昔の祖先が汗を流し、血と汗の結晶に依り築いてこられた林業地に間違いないと思えますけれども、文化・文明の発展に何か取り残された感じが致します。苗木生産から素材生産、住宅販売（ログ）に至る迄の事業を取り組んでいる森林組合も日田郡の五ヶ町村合併（S53年10月1日）以来すでに拾数年の月日が流れています。正に「光陰矢の如し」言葉の通り歳月の流れの早さに驚いています。私は合併論者ではございませんが、日田市との森林組合合併が組合員との話合いがまとまるならば、日田林業発展のためにも考慮すべき時期に来ているのではないかと思います。更に、日田の木材市場、製材所、木工所、木材協同組合、建築組合等の横の連帯を深めながら、木材業進展のために今こそ立ち上がるべきではないでしょうか？ 特に林業に関する撫育、間伐、採取、搬出等の人夫が不足している現況を想うとき、林業大学（日田林工高等学校）を誘致して今後の林業後継者の養成を考えるべきだと思います。林業関係の仕事にたずさわるならば、林業大学中にいろんな実践出来る訓練をして、卒業後直に役立つ作業班の養成が急務と思います。大学問題は、用地問題や林業だけでなく、広瀬淡窓発生の

地であれば、普通の大学（例えば教育学部）更に女子の大学等も検討する必要があるのは当然かとも思われます？

幸にして、県もH2年11月22日の新聞法上に間伐森林会社設立の動きが記載され、今後の林業に活を入れることの出来ることは大変喜ばしいこととございます。やはり森林組合の内容充実こそが山林所有者も安心出来るし、林業にたずさわる若者の後継者も多くの方が就職出来るのではないかと思っております。

今山林後継者問題は、嫁問題と同じく大変困難な時代を迎えて居りますけれども、永々と築いた先人の林業地を守り育てるためにも私達はこの問題解決に精一杯取り組まねばならぬと覚悟を新たに致している所でございます。

先般林業まつりで全国の林業地より、市町村長の林業サミットが行われましたが、どの話しを承っても行政の在り方と経済行為の林業の在り方がそれぞれ相違することで、結論的に申しまして、これと言った決定的なお話しを承ることが出来なかったのが残念でした。やはり私達はもう一度、足元を見つめ直して今後の林業の在り方を真剣に取り組むより外に方法はないのではないかと思っております。

全国に先きがけて、実際に役立つ林業大学こそ、各立派な大学の誕生こそ全国各地から暖い御支援を受けるのではないかと思っております。幸にして、日田地区には立派な県の林業試験場もございます、いろんな試験研究についても大変便利です。恵まれた環境条件の中から日田林業の発展方向が位置づけされるものと思います。先日にも日田玖珠広域圏に於て、玖珠の中央公民館にて「今こそ光、ふるさと日田玖珠ボーダレス」と言う、第1回のシンポジウムが開かれましたが、その席でも学園都市としての構想が打ち出されて居りましたが、私達は更に人の輪を広げながら地域住民の暖い御配慮とご理解を深めながら、地元県議の先生や地元国会議員の先生方の御指導のもとに今後努力を続けて行くべきだと思います。そして一日も早く日田林業に光が訪れる日が来ることを期待しながら、読者の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 技術コーナー

# 粘着バンドによる ヒノキカワモグリガ 加害防止効果

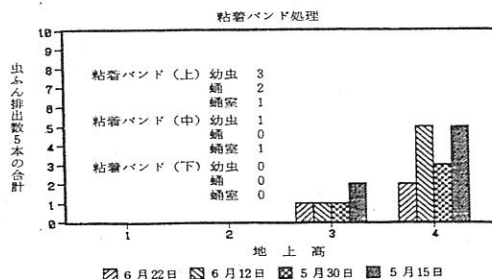
前々回の林試だよりNo.33の技術コーナーでヒノキカワモグリガの防除について記載されています。この場合、枝打ちによる林業的防除、くん煙剤による薬剤防除が内容でどちらも効果的な防除法といえます。今回は、粘着バンドを使用した場合の防除効果について話してみたいと思います。

粘着バンドは厚紙の片面に粘着液がつけられているもので、使用時には剥離紙をはがし、粘着部分を内側にして樹幹に巻き付けます。初めての人は想像しづらいかも知れませんが、蠅取り紙を応用したものと考えればよろしいでしょう。

この粘着バンドはスギカミキリですでに実用化されており、商品名をカミキリホイホイと言います。成虫の発生直前にこの粘着バンドを地上高0.5～2.0 mの部位に巻き付けると、羽化脱出した成虫が樹幹を這う内にこのバンド内に潜り込み、粘着部分に捕らえられるという仕組みになっています。現在、スギカミキリの有効的な防除法のひとつです。

この方法をヒノキカワモグリガに応用してはたして効果的に幼虫を捕らえることができるかどうか、1990年5～6月に調査しました。

以下、試験の方法、結果および考察につい



て述べてみたいと思います。

## 1. 試験方法

粗皮剥ぎ処理、粗皮剥ぎをしてその部分に粘着バンドを巻き付けたもの（粗皮剥ぎ+粘着バンド）、粘着バンドをただ巻いたもの（粘着バンド）と無処理の4処理区を設け、各区5本ずつ計20本を調査木としました。粗皮剥ぎと粘着バンドの処理高は地上高1～2 mとし、粘着バンドを半分の幅に切ったものを3枚ほぼ等間隔になるように巻き付けました。調査は幼虫の動きを知るため虫糞排出個所を地上高4 mまで1 m毎に計数し、同時に粘着バンドに捕獲できた幼虫と蛹についても計数しました。

## 2. 結果および考察

試験結果は図-1に示しました（今回は紙面の関係上粗皮剥ぎについては省かせて頂きます）。粘着バンドを巻き付けた場合、その捕獲状況をみると処理域に到達した幼虫すべてが3枚のうち上2枚に捕らえられていました。ただ粗皮剥ぎを処理した場合、樹幹にしっかり張り付いてしまい幼虫をうまく捕獲できないようで、上から2枚目のバンドに捕獲される割合が高かったようです。

粘着バンドを3枚連続して巻き付ければその部分を通過しようとするすべての幼虫を捕獲できるようです。ただ巻き付け方、粗皮の状態等によってその効果は違ってくるものと思われるます。

手間とコストがかかる防除法ですが薬剤を使用しない面では環境にやさしい方法です。

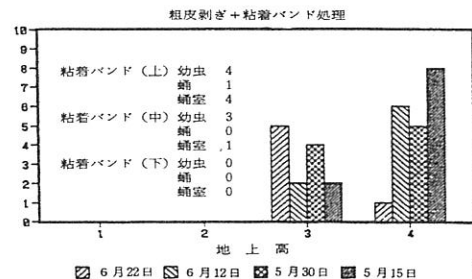


図-1 粘着バンド使用による防除効果実証試験地上高別虫糞排出の推移と粘着バンド捕獲虫数

(育林部 高宮)

# 海外派遣研修報告

## 見てきた、ヨーロッパの森林衰退の現状

昨秋、大分県海外派遣研修の一員として、9月28日より10月27日の丁度1ヶ月間にわたり、スウェーデンをはじめ、統一後間もない旧西ドイツなどヨーロッパ5ヶ国を訪問し、酸性雨等酸性降下物による森林被害の実態とその対策等について視察研修を行ってまいりました。この間、スウェーデン農科大学など4ヶ国6機関を公式訪問し、森林環境問題について取り組んでいる第一線級の多数の学者、研究者に会うことができ、森林衰退に対する最新の研究成果や動向について多くの教示、示唆を与えられ、また膝を交えての意見交換ができたことは、大変意義深い旅であったと思っております。以下訪問しました国々について印象的なことなど写真を中心に少しばかり触れてみます。

### 1. スウェーデン

北歐スウェーデンは、おとぎの国のようにとても整然として美しい国で、とくに信じられない程の美人が多いのに驚かされます。この国は、木材関連産業が国の基幹となっていることから、森林の造成、保育にはことのほか意欲的で、林木育種についても非常に熱心で



写真-1 ヨーロッパアカマツの種子採取

す。ちなみに日本で行われている林木育種事業は、このスウェーデンの集団選抜の理論が下敷になっております。スウェーデンの主な造林樹種は、ドイツトウヒ、ヨーロッパアカマツが代表的で、ポプラ、ブナなども植栽されています。年間の造林用苗木は4億5千万本とされ、大部分が機械化の進んだ政府直営の苗畑で生産されています。写真は、ヨーロッパアカマツの採種状況です（写真-1）。

### 2. オーストリア

森と音楽の都オーストリアの国立林業試験場を訪問しました。ウィーンの森が見たいという私を、話はどこで喰い違ったのか、ドクター・クラウスは、ウィーン郊外の火力発電所へ案内してくれました。ポーランド産の石灰を使用する最新整備を誇る巨大な発電所でこの自慢は、周囲7ヶ所に設定してある監視システムとオープン・トップチャンバー（大気を吸引しこの中で植物の生育状況を調べる装置）でありました。そのうちの一観測地を視察しましたが、どうしたことか係員がカギを忘れ、中に入ることが出来ず残念でした。今度来る時は、是非オープンしていただきたいものだという係員は、とてもバツの悪そうな顔をして気の毒がるのでした。私は駄ジャレのつもりで言ったのですが。（写真-2）



写真-2 火力発電所とオープン・トップチャンバー

### 3. スイス

スイスは、研修旅行の中休みといったところで4日間ほど滞在しました。世界の自然公園と呼ばれるだけあって、その美しさは筆舌に尽しがたいものがありました。絵ハガキなどで見なれているはずの風景でありましたが、山と谷、コバルトブルーの湖、白く輝くアルプスの山々、山合いに点在する民家、カウベルを鳴らしのんびりと草を食む牛、民家の窓を飾る色とりどりの花々、これらが実感として眼前に次から次へと展開していくさまは、体の震えるような新鮮な感動を味わいました。あまりにも美しすぎて、旅行三日目にもなると、いささか退屈さえ覚える程のどうしようもない美しさでありました。(写真-3)



写真-3 スイス小景

### 4. ドイツ(フライブルグ)

フライブルグの街の東部には、有名なシュバルツバルグ(黒い森)が広がっています。「黒い森」はドナウ川の源流流域に広がる60万haに及ぶモミ、トウヒの一大森林丘陵地帯でドイツの人々が「心のふるさと」と呼ぶ自慢の森です。この自慢の森は、1980年代の後半から酸性雨とされる被害のため、森林の衰退が目立ちはじめ、現在では、その75%が被害をこうむっていると報道されていますが、森の中を縦横に走る道路や山麓の村々、あるいは小高い山の頂き等より見て廻った感じでは、「森の病気」の深刻さはうかがうことができませんでした。写真は、フェルデベルグ山頂(1493m)から黒々としたトウヒ、

モミの森を背景に案内者リップペイガ氏と私です。(写真-4)

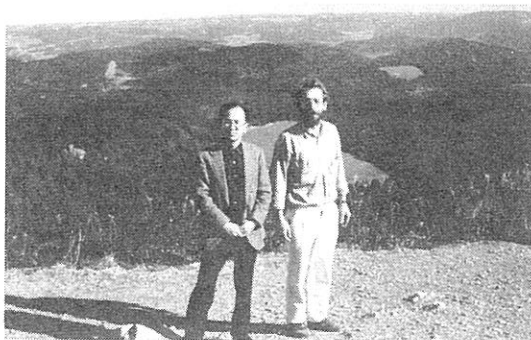


写真-4 黒い森をバックに

### 5. フランス

フランスではナンシーという人口40万位の都市にある国立農事試験場を訪問しました。ナンシーは、花の都パリから東へ300kmのところにあります。そのナンシーより更に80km東に行くとドイツとの国境沿いにアルザスの山並みが南北方向に連なります。アルザス山地は40万haの規模をもつモミとトラヒの森林地帯です。このアルザス山地のほぼ中央部のドノンというところに、DEFORPAという名のもとに、高さ50mという大気観測装置が設定され、森林地帯における大気の状態を刻々と観測しパリの本部へ送りつづけています。この一帯は、フランスでも森林の衰退の著しいところで、そのためには、具体的で正確な、大気の観測データの集積が要求されているのです。写真はドノン・タワーより見た森林の状況です。(写真-5)



写真-5 ドノン・タワーより見たアルザス地方の森林

(育林部 諫本)

## 有用樹種の育て方

## ＝ カ ヤ ＝

Torreya nucifera Sieb et Zucc.

宮城県以南の本州、四国、九州の暖帯に広く分布する常緑高木で、高さ20m、直径1mに達する。雌雄異株で開花は4～5月、果実は翌年9月下旬～10月中旬に成熟する。3～4年に一度の凶作年がみられる。種子は長さ1.5～2.5cm、径1.5cmほどの楕円形で両端がとがっている。精選種子1ℓ当り420粒、1kg当り750粒である。種子は生でも食べられるが炒ったほうが美味である。カヤ油はオリーブ油の代用とされ、蛔虫などの駆除薬としても効果があるとされている。材は優美で、碁盤などに供され、また腐りにくいため、風呂桶などに利用される。

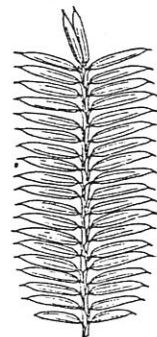
種子は乾燥を特に嫌い、僅かの乾燥でも休眠する性質がある。このため、落下した果実は長い期間地上で乾燥状態におかないですぐ拾い集めなければならない。樹上で果皮が少し裂けたころ棒でたたか、ゆすれば多量に採種することができる。集めた果実は果皮を除いた後、直ちに播種すると翌春にはほとんど発芽する。しかしながら乾燥した種子は発芽に2年を要するか、あるいは全く発芽しないので注意が必要である。精選種子は2～3日水に浸漬後直ちに播種するか、もしくは湿った砂とともに低温貯蔵か土中埋蔵する。貯蔵は1～2年が限度である。採種時期遅れの落下種子は1年間保湿低温貯蔵したほうが良い。

通常の場合、精選種子であれば発芽率は75%前後(60～90%)である。播種時期はとりまきが適するが、貯蔵が適切であれば春まき(3月)でも良い。播種量は㎡当り470粒または620g程度を点播する。発芽は5月上旬である。発芽期待本数は㎡当り350本、得苗数は200～300本、平均苗高9cm前後で

ある。床替は1年据置きとし、2年目の秋または3年目の3月に㎡当り30～35本程度とする。播種床は保水力に富む植壇土がよく、初秋まで日覆を設け乾燥に注意する必要がある。発芽後の病虫害は比較的少ない。

苗木の繁殖は通常種子によっているが、さし木も可能である。樹勢の強い母樹から、春ざしは前年枝、夏ざしは当年枝にそれぞれ2～3年生枝を一部つけて採種し、天ざしとする。雌雄異株のため雌木が必要な場合は採種に注意する。管ざしは苗形が不整になるので避けた方がよい。さし穂長は15～20cm、葉量は1/2程度とする。さしつけ時期は3～4月、または6～7月が適する。発根は露地では中程度であるが、IBA処理(オキシベロン1.0%粉剤)とミスト(ガラス室、ビニールハウス)を併用すれば発根率が高くなる。さし床用土は鹿沼土、山砂などがよい。さしつけ本数は㎡当り100～150本とし、床替は初秋または3～4月に㎡当り20～30本程度とする。床替えは肥沃で乾燥しない半日陰がよい。

カヤはスギやマツよりも空気汚染や土壌の乾湿にも強いといわれている。このためか都心部でも良く生育して大木になっているカヤが見受けられる。これからの造園樹木として備えているべき大事な条件は、せん定やかん水、施肥等になるべく人手をかけなくても立派な形になることであるが、カヤはこのような条件をも具備しており、今後有望な樹種といえよう。(育林部 佐々木)



## 佐寺原遺跡の発掘

大分県教育庁文化課

松本 康弘

遺跡は、当林試のある日田盆地の東部の佐寺原台地上に位置する。ここは、弥生時代の遺跡として古くから知られていました。林試の方の話によると、本館や加工実習舎を建てた際に多数の土器が発見されたとのこと。実際、発掘しなくても苗畑などでは容易に土器を拾うことができます。今回、九州横断自動車道建設の事前調査として行った発掘により、弥生時代の集落を確認しました。

今回の調査で検出されたのは、弥生時代前期末から後期にいたる監穴式住居、貯蔵穴、溝、甕棺墓などの生活あるいは墓の遺構です。

住居跡は約30軒検出されました。平面プランは円形と方形がみられ、中期の住居跡は円形で、後期になると方形へと変わっていきます。また方形住居跡には、両側に巾約1mのベット状遺構が付いています。

次に、貯蔵穴については約40基が検出されました。貯蔵穴も住居と同様に時代によってプランが変わっていきます。前期末は小型円形で、次に袋状（フラスコ状）になり、中期中頃には方形になります。これらの変遷は、筑後川上流域では普遍的にみられ、北部九州の影響を強く受けているといえます。

小児用甕棺は15基検出されました。そのうち13基は合せ口式のもので、1基は石で蓋をした単棺のものです。

次に、出土した遺物は土器の他、石器、鉄器があります。

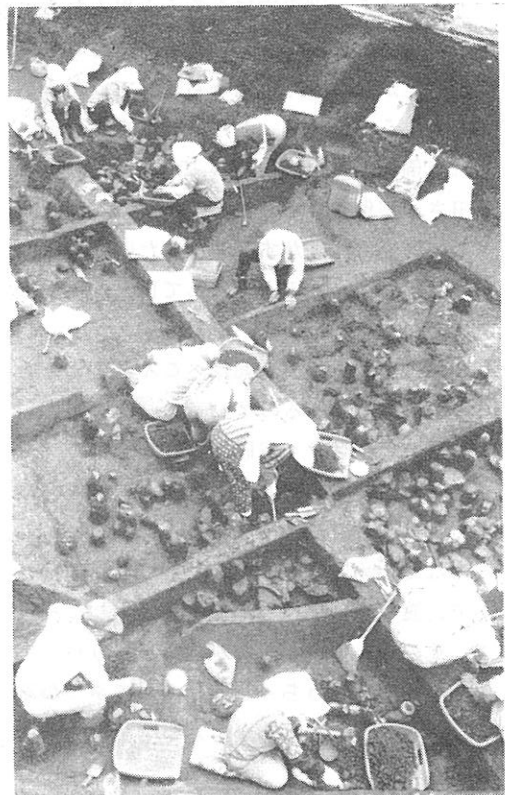
土器は北部九州の影響を強く受けたものが多数出土しています。その一方、前期末の貯蔵穴から、豊後の沿岸部で主流をなす下城式土器が出土しています。この土器は、筑後川上流域では、これまでほとんど出土していなかっただけに注目されます。また、後期前半

の住居跡から、西瀬戸内にみられる凹線文土器が出土しています。これらの土器は主流を占めるものではなく、この地域が北部九州の文化圏に属していたことに変わりはありません。しかしながら、当時の交易を知るうえで貴重なものです。

石器は、縄文時代からの石鍬、石皿、磨石の他に、稲作農耕と共に日本に入ってきた石庖丁、磨製石鍬、扁平片刃石斧、扶入柱状片刃石斧などの大陸系磨石器もみられます。

以上のように、今回の調査で、佐寺原遺跡は日田盆地では、吹上遺跡に匹敵する弥生時代の拠点的な大集落であることがわかりました。今後資料を整理していく中で重要な発見がある可能性もあり、弥生時代の研究に寄与できるものと考えます。

終わりにになりましたが、今回の発掘において多大な協力をいただきました林試の皆様方に心から感謝の意を表します。



## — 研究員を訪ねて —

### 第 4 回

### 増田主幹研究員の巻

林試日より発行の時期になると、何を恐れてか私の顔を見ただけで逃げ出す研究員が増えるんですが、その筆頭が今回ターゲットとなった増田主幹研究員であります。今回も、「午後からインタビューに行きますがいいですか？」と聞くと、「いいよ。」と答えているながら、行ってみるとどこかに逃げ出して所在がつかめなくなっちゃった。

なにせ、2回目の逃亡であり（江藤主任研究員の巻参照）、適当な研究員がない。しかたがないのでいろんな人から話をうかがって、増田主幹研究員の全貌に迫ることにしたんだけど、まずは証言をいくつか。

\* 証言 その1 I 研究員

「このまえ、図書室に入ろうと思うたら、戸が開かんのじゃ。どうしたんかと思うたら、移動書架がひっくりかえっちゃって、どうしようもならんのじゃ。どげんことをしたら、あれが倒るのか解らんかったけど、あれは増田さんが倒したらしいで。」

この書架は、動かすだけでもたいへんな力がある代物で、どのようにして倒したかは未だに定かではない。

なお、この書架の背面はへこんだままであります。（どーするの？）

\* 証言 その2 T 研究員

「この前、増田さんがトラックに材木を積んだまま渡り廊下に突っ込んでいくもんで、みんなで止めようとしたんじゃけど間に合わんで、渡り廊下の屋根に材木が激突したんじゃ。その後、何を考えたか、いきなりバックするもんで、もうちょっとで私の車につつかるところじゃった。なんか考え事をしよったんじゃろうか？」

渡り廊下の屋根はしばらくの間、無残な姿

をさらしてました。破壊の状況は数名の目撃者により明確。言逃れ不能。

\* 証言 その3 ふたたび I 研究員

「作業舎（旧環境制御装置跡）の中があんまり汚いから掃除をなさいちゅうて、増田さんから怒られた。それで、一生懸命片付けたんじゃ。その後、行ってみたら、前の倍ぐらい増田さんが散らかしちよったぞ。昔は、Hさんちゅう人がおって、増田さんの後をついてまわって片付けよったけど、今はそげな人がおらんけんのお。」

私は、どれほど散らかっているのか見えていないのでなんとも言えません。

\* 証言 その4 匿名希望A

「増田さんが公用車に豚糞を積むもんで、臭くて後は乗られんで。ほしてから、堆肥が服に付いたまま運転席に座るもんで運転席に堆肥がついちよったで。きたーねえ！」。

増田主幹の主な仕事はパーク堆肥の研究で、これがまた、豚糞やら焼酎カスやら混ぜるもんでたいへん臭いのであります。（増田主幹、ごめんなさい。）

さて、まだまだ証言は続くのですが、本人がいないと、みなさん、口が軽くなるようで、すばらしい証言がどんどん飛出してきました。後をむいたら何を言ってもいいというおそろしい職場であります。

読者の皆さんも、これらの証言を見て、増田主幹の人となりが多少理解できたことと思うので（ムチャクチャじゃ！）、これから、



Mr. パーク・増田



増田主幹の一応の経歴などについて少し言及しましょう。

増田主幹は鹿児島県出身の薩摩隼人、鹿児島随一の名門、鶴丸高校から九州大学へ進み卒業後1年間の民間経験を経て昭和39年大分県に奉職。治山関係等を担当し、昭和47年より第1期林試時代を過す。昭和54年より再び行政に復帰し、県北から県南までを股にかけ活躍(!)の後、平成元年第2期林試時代を開始する。農改に勤めバリバリ働く奥さん(モモエさん、旧姓山口!!)とおおらかに育った非常に元気のよい二人の息子さんとの四人ぐらし。総じて行政経験に乏しい林試研究員の中では行政経験が豊富な部類に属し、その経験を生かした試験研究の推進が期待される木材部の花(?)である。

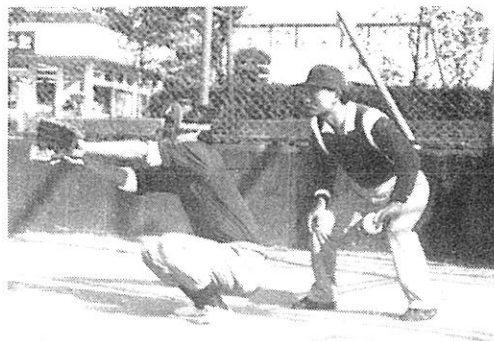
さて、この位書けば、おおむねページも埋ったことだし、増田主幹の全貌が読者の皆さんにわかってきたことと思うので(わかるわけなかるうもん!)、そろそろ筆を置こうと思ったところで、行方不明となっていた本人が現れた。何か一言自分の口から言いたいことがあるらしい。今回は、インタビューなしでやる予定だったのだが、ちょっと聞いてみましょう。

「試験場に戻っての感想は、喧騒と煩雑な業務に追われる職場から緑陰の木の香がただよう研究棟に来て生き返る気持ちです。それだけ恵まれた環境で研究業務に精励しなければという思いです。」

そうじゃなあ。試験場は市内から離れたノドカな所じゃからなあ。あまりあわてず、ノンビリやって下さい。

「しばらく行政を経験しましたが、行政から見ると、試験場の研究員はすごい事をやっているなあ、という感じです。」

そうかなあ。いつも行政の人から、試験場は何をしようかえ? 暇でいいなあ、と言われているようにありますか?



増田主幹研究員の御尊姿

「私の場合、行政体験のなかで林家や森林組合にふれてきたことが、林業・林産業という経済行為を研究する上でとても役に立っていると思います。」

ハイ、ハイ。(あんまり真面目な事しか言わないもので聞くのがヨダキ私であった。)

「今度、1月から森林総合研究所に研修に行くんですが、海外研修生と友好を深め、できたら外国語も習いたいですね。」

何しに研修に行くんじゃろうか?

「まあ、木材乾燥と木造建築についても研修を受けるつもりですが。」

パーク堆肥はどうするんじゃろうか?

「まあこの位書いといてください。」

あれっ。もう終わりですか? これじゃ、えらく真面目な増田主幹の印象ができてしまうじゃないですか。あっ。ちょっと待って。

あーあ。帰っちゃった。

最後に、S研究員がどうしてもこの証言を書いてほしいと言うので入れる事にしました。

#### \* 証言 その5 S研究員

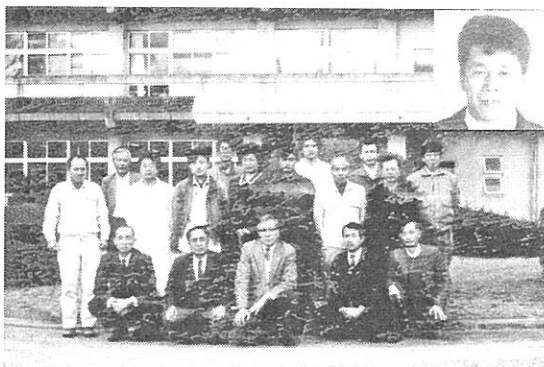
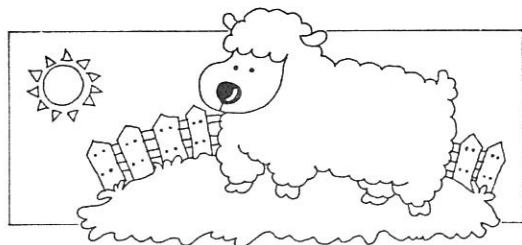
「私の実験用にビーカーやらフラスコやら置いとくと増田さんが部屋に来ては“これはいいものがあるなあ”とか言いながら持って行くんじゃ。そして、返してくれんでパークが入ったまんま捨てちゃったりするんじゃが、あれはどうかならんかなあ。」

いや、私に言われても……。困ったな。

—お後はよろしいようで— チャン、チャン!

# 寿 春

旧年中の厚情をお礼申し上げます  
尚本年もよろしくお願ひ致します



(林業試験場職員一同)

## 編集後記

最近、1年が経つのが早い気がします。

昨年夏の異常な熱さ、中東問題、人手不足、環境問題など社会経済情勢がめまぐるしく変化しているためと思います。

林業試験場の裏にも高速道が通る準備が進んでいます。

試験研究も時代に対応した即戦力が要求されると思いますが、地道な基礎研究も必要かと思ひます。

私共も、森林、林業、木材産業の発展に大いに役立ってまいりたいと考えますので、皆様のご意見、ご希望等をお聞かせ願ひれば幸いです。(林試だより 編集委員一同)

## 主な行事

(平成2年4月～12月)

7月2日～6日

製材技能者養成研修を行い、県内各地の森林組合、製材所等の職員が参加されました。

7月27日

グリーンポリス圏域林業試験研究連絡会の総会が開催され、平成2年度の事業計画等について審議しました。

9月11日

第10回農林関係試験研究機関合同シンポジウムが当場で開催され、種苗増殖について話し合いました。

10月6日～7日

日本林学会九州支部大会が熊本市で開催され、当场から育林や木材について8名が発表しました。

10月18日

県林研主催による優良材コンクールが当場で開催され、県内から立派な無節材ができることが実証されました。

11月28日

婦人木工教室を開催し、木材の知識と木材の利用方法についての研究を行いました。



### 林試だより No.36

発行・平成3年1月7日

編集・グリーンポリス圏域林業試験研究連絡会

大分県林業試験場

大分県日田市大字有田字佐寺原

TEL.(0973)23-2146

印刷・川原企画/大分県日田市日ノ隈町192

TEL・FAX(0973)22-1241